

はじめに

最新の文部科学省特別支援教育資料（文部科学省，2020）では、令和元年5月現在、全国の小学校に知的障害特別支援学級が19,994学級あり90,462名在籍しているという値が示されています。これは自閉症・情緒障害特別支援学級に次いで大きな値となっています。全障害種の小学校特別支援学級（46,590学級、在籍者数199,564名）の42.9%を知的障害特別支援学級が占めていることとなります。また、人数比を算出すると、特別支援学級在籍児童の45.3%が知的障害特別支援学級に在籍していることが分かります。また、少子化傾向にあるなか、知的障害特別支援学級の学級数も在籍児童数も年々増加しています。

その一方で、特別支援教育経験3年以下の担任が多く（国立特別支援教育総合研究所，2014；2020）、特別支援学校教諭等免許状保有率は3割程度（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課，2018）と依然として低いことが明らかになっています。知的障害特別支援学級担任には、通常教育課程に加え、特別支援学校（知的障害）の教育課程を参考とし、児童生徒の実態に応じた教育課程の編成が求められます。また、在籍児童生徒の知的障害の状態や人数、学年などの多様な実態に合わせた授業づくりが必要で、在籍人数が少ないため学習集団は小さいけれども、年齢や知的発達レベルの幅が特別支援学校と比べて大きくなる場合があり、教育課程の編成や授業の組み立てがより難しいと言え、幅広い専門性が求められます。

そこで、本研究では知的障害特別支援学級の担当経験の浅い担任を対象に授業力向上のためのサポートキットの開発を行いました。国語科と算数科の実践をまとめましたが、授業づくりの基本的なエッセンスは他教科や各教科等合わせた指導にも応用できると考えております。

令和3年1月に出された「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」では、教師の専門性の向上が挙げられており、「長期休業期間等を活用し、他の学校の特別支援学級や通級による指導を担当する教師と、課題に応じた指導や支援の方法等を、情報共有する機会の充実も期待される。」とあります。このような機会も含め、広く学校現場で本研究成果物「知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット（小学校編）すけっと（Sukett）」をご活用頂ければ幸いです。

本研究の実施に当たっては、2020年度は新型コロナウイルス感染症パンデミックにより当初の計画通りには行かない面もある中、研究協力機関の先生方のご協力の下、貴重な実践事例の収集と分析を行うことができました。また、研究推進に当たり、研究協力機関の先生方並びに研究協力者の皆様より貴重なご意見を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

経験の浅い教員だけでなく、経験を積んだ教員の更なる資質向上とキャリアプランの検討のほか、知的障害特別支援学級における研究課題は多く残されておりますが、本研究により学校現場の授業力向上に幾分でも寄与出来れば幸甚です。

本報告書をお読み頂いて忌憚のないご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

研究代表者 インクルーシブ教育システム推進センター主任研究員 涌井 恵